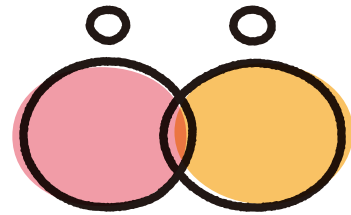


人と人がつながるカタチを描きました。
一人ひとりの支えあう気持ちが重なりあって、
もっと大きなチカラが生まれるといいな
という意味をこめて



今できること
プロジェクト

お申し込み・お問い合わせ



河北新報社

●営業局営業部

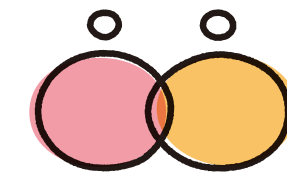
〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-211-1318 FAX 022-227-0923

●東京支社営業部

〒105-0004 東京都港区新橋5-13-1新橋菊栄ビル7F
TEL 03-6435-8401 FAX 03-6435-8406

●大阪支社営業部

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-23
TEL 06-6227-1051 FAX 06-6227-1060



今できること
プロジェクト

2025-2026

学び直しと伝承

2025年度

賛同企業募集
企画書

東日本大震災から15年
被災の知見から多くを学びましょう



河北新報社

2025年7月



地域の未来のために 河北新報社が考える復興支援プロジェクト

「今できることプロジェクト」は、東日本大震災からの懸命な復旧・復興の取り組みの中で「今、私たちにできることは何だろうか?」という問いかけから2012年に始動しました。

これまで、多くの企業・団体の皆様、読者の皆様から共感をいただき、さまざまな活動を展開してまいりました。

東日本大震災の発生から15年が経過する本年度は、被災地に寄り添って伴走するプロジェクトの原点はそのままに、被災地域の今を見つめ直すことに注力。いつ起こるのか分からない災害への備えを学ぶプログラムにも取り組みます。

今年度、賛同企業・団体の皆様と新たに取り組むプログラムは、仙台市危機管理局防災・減災部 減災推進課による都市型災害に備えるワークショッププログラム。人口が密集する都市部での災害への対処、命を守るための心構えを学ぶワークショップは2回の実施を予定しています。

被災地視察バスツアーは11月に気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館とリアス・アーク美術館を視察します。さらに、震災伝承、防災・減災活動の「連携」「企画」「育成」を掲げ、被災3県で活動する(公社)3.11メモリアルネットワークとの共同事業として岩沼市と東松島市の視察ツアーを12月と2月に実施。3.11メモリアルネットワークの知見を反映したツアーは、被災地域の歩みと現状を学ぶ格好の機会になると考えます。

東日本大震災を経験していない世代が増え、転勤や就職、進学などで震災後に宮城県内で生活を始めた方々も少なくありません。東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城で暮らす私たちは、記憶が薄れつつある震災と復興の過程を学び直し、身近で起こり得る災害への備えを忘れてはなりません。

当プロジェクトでは、被災地の新聞社ならではのプログラムを準備させていただきました。ぜひ趣旨にご賛同いただき、企業・団体の皆様と一緒に取り組むことが出来たら幸いです。

厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

これまでの詳しい活動の記録は
こちらからご覧いただけます。



そして、これから、ともに。

1

賛同企業・一般参加プログラム

次世代継承の現場に触れ、 津波被災物に学ぶツアー

若き語り部がガイドする「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」と
山内館長が案内するリアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史」



気仙沼向洋高等学校旧校舎を襲った地震と津波の爪痕を、当時そのままに展示公開している「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」。若い語り部を育成する拠点にもなっており、現在、地元の中高生を中心に約80人が登録しています。このツアーでは、震災前後に生まれた語り部にガイドを依頼し、若者ならではの視点で考える東日本大震災や防災の学びに触れます。

震災後の2年間にわたる被害記録調査により、「リアス・アーク美術館」に新設された常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」。この企画を担当したのが館長の山内宏泰さんです。山内さんは著作の中で、震災のダメージで本来の機能を失ったモノを“被災物”と呼び、被災した人の心情を物語る記憶の器として捉えています。また、“価値のないもの、つまらないもの”という意味を持つ“ガレキ”を、被災地を語る言葉として用いることにも疑問を呈しています。そんな山内さんのガイドで常設展を見学し、約500点もの資料や多角的な視点から震災への考察を深めます。2021年、市内を一望する高台に整備された気仙沼市復興祈念公園にも足を運び、犠牲者の追悼と記憶の継承を願う思いに接します。

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

震災の記録と教訓を伝承するため、4階の高さまで津波の甚大な被害を受けた気仙沼向洋高校旧校舎を震災遺構として保存。当時そのままの被災状況を一般公開しているほか、津波が押し寄せる映像や被災直後の写真など貴重な展示資料も見学することができます。

リアス・アーク美術館

東北・北海道の現代美術とともに、地域の歴史・民俗資料を紹介するミュージアム。震災後、2年間にわたって気仙沼市・南三陸町の被害記録調査を行い、常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」を新設。津波災害と地域文化の関わり方を考える場になっています。

企画展開
スケジュール
(予定)

2025年10月上旬 参加者募集スタート
2025年11月8日 視察ツアー実施
2025年12月中旬 視察ツアー採録紙面掲載

参加募集について

賛同企業様を中心に募集します。
申込み方法及び詳細は後日お知らせします。

仙台市 減災推進課 × 今できることプロジェクト 都市型災害に備えるスキルを磨く 防災・減災ワークショップ

(協力／仙台市危機管理局 防災・減災部 減災推進課)



実施予定内容

- 災害VRによる地震・津波・風水害などの疑似体験
- ハザードマップを活用して自宅・職場・通勤経路のリスクを可視化
- 風水害時の行動を時系列で整理する「マイ・タイムライン」の作成
- 「在宅避難」に必要な備え
- 災害時の二次的な被害の要因となる帰宅困難者にならないための対策 など

会場

河北新報社セミナールーム(各回定員30名程度)

仙台市防災・減災アドバイザーと一緒に 備えを学ぶ

通勤・通学者を含む仙台市の昼間人口は115万人に達します。都市部は生活利便性が高い反面、人口が密集するがゆえ、巨大地震や内水氾濫の発生時に災害リスクが高まる傾向にあります。物流とインフラが広範囲で途絶した東日本大震災では、仙台の都市機能が麻痺。多くの市民が長期にわたって不自由を強いられました。

今年度の今できることプロジェクトでは、仙台市危機管理局減災推進課ご協力のもと、災害リスクへの理解を深め、大規模な自然災害の発生時に推奨される在宅避難や帰宅困難とならないための備えなどの自助・共助を学ぶ実践型ワークショップを新たに実施します。

国連が定めた災害リスクと損失を削減するための国際指針「仙台防災枠組」の理念を実践する当ワークショップ。仙台市防災・減災アドバイザーの指導のもと、日常生活や職場で活かす災害への備えを強化し、皆さまの防災力向上に寄与することを目指します。賛同企業の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

企画展開 スケジュール (予定)

2025年10月中旬	参加募集スタート
2025年11月中旬の平日	ワークショップ1回目実施
2025年12月中旬	参加募集スタート
2026年1月中旬の平日	ワークショップ2回目実施
2026年2月下旬	ワークショップ採録紙面掲載

参加募集について

賛同企業様を中心に募集します。
申込み方法及び詳細は後日お知らせします。



仙台防災枠組:2015年3月に仙台で開催された「第3回国連防災世界会議」で採択された世界の防災政策に関する2030年を見据えた指針。災害リスクの理解と管理、リスク削減への投資、そしてより良い復興の推進という4つの優先行動を掲げ、災害に強い社会の構築を目指している。

仙台市消防局マスコットキャラクター
防災まさむね君
(協力:伊達家伯(かはく)記念會)

3.11メモリアルネットワーク × 今できることプロジェクト 被災地視察ツアー

(公社)3.11メモリアルネットワークのスタッフがガイドとして同行し、ご案内するツアーを実施します。

被災地視察① 岩沼市



「復興のトップランナー、震災を未来へ つなぐ取り組みに触れるツアー」

防災集団移転事業の先鞭をつけた「まちびらき」から10年。その成功例として知られる玉浦西地区を訪問し、3.11からの歩みと現状を視察します。相野釜公園 千年希望の丘では、埋もれがちな仙台平野の被災と希望を未来につなぐ語り部の話に耳を傾けます。民営化から10年を経た仙台空港では、復興を後押しした取り組みを学びます。



訪問先(予定)

- 岩沼市玉浦西地区
- 相野釜公園 千年希望の丘
- 仙台空港の被災・復興状況の視察
- 視察終了後、仙台へ戻り賛同社様との交流会を予定しております。

企画展開 スケジュール (予定)

2025年11月上旬	参加募集スタート
2025年12月3日(水)予定	視察ツアー実施
2026年1月中旬	ツアー採録紙面掲載



東日本大震災の経験を根底に据え、教訓の伝承に関わる個人・団体・拠点施設が地域や世代を超えてネットワークでつながり、過去に向き合い未来へ備える意識を全国、世界と共有しながら、「災害で命が失われない社会の実現」「被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会の実現」を目指して活動している団体です。

被災地視察② 東松島市



「被災後の住民パワーに触れるツアー」

被災体験や支援への感謝を伝え継ぐ市民参加型ミュージカルの上演映像を野蒜地区で鑑賞後、住民の前向きな力がコミュニティのつながりを支えた防災集団移転団地あおい地区を訪問。大曲地区では当事者ではない大学生が被災地で語り部を行う姿に触れます。地元の被災企業ヤマニシでは津波から従業員の命を守った経緯をお聞きします。



訪問先(予定)

- 復興ミュージカル100通りのありがとうDVD上映
- 東松島震災復興伝承館・震災遺構旧野蒜駅ホーム
- あおい西集会場
- 大曲地区・ヤマニシ

企画展開 スケジュール (予定)

2026年1月上旬	参加募集スタート
2026年2月4日(水)予定	視察ツアー実施
2026年3月中旬	ツアー採録紙面掲載

参加募集について

賛同企業様を中心に募集します。
申込み方法及び詳細は後日お知らせします。

紙面展開

プロジェクトにご協力いただく賛同企業様の
ために、ツアーの一般参加者を募る募集告知
(全7段・全5段)や活動内容を伝えるレポート
(全15段)ほか、さまざまな紙面展開をご用意
しています。賛同企業様の社名やロゴの紙面
掲載をはじめ、ディスプレイ広告や記事体広
告など、ご要望に合わせてご案内いたします。

プロジェクト告知(社名ロゴ連合)

- 2025年10月～2026年3月まで
●朝刊カラー全5段(タテ169mm×ヨコ381mm)



今年7月に
「プロジェクト
イノベーター」を
発起し、発足

私たちに賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、
このプロジェクトに賛同し推進していきます。

2018年
河北
新聞社
提携する企業として



住友重工業



住友建設



住友システム



住友ネット



住友ビール



住友信託銀行



住友不動産



住友生命



住友火災海上保険



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス



住友クレジットサービス

賛同企業フリースペース

2025年10月から2026年3月までの期間で、①、②、③のいずれかを選んでいただき掲載します。

①記事体広告(3段1/2モノクロ)

- ・被災地支援活動の朝刊掲載記事広告

・内容素材・写真提供のうえ制作します(制作費用はかかりません)

・掲載は毎月下旬、複数社を取りまとめて掲載します。ご希望の掲載月をお知らせ下さい。

②ディスプレイ広告(4段1/4カラー)

- ・朝刊カラー 4 段 1/4 相当のカット付きフリースペース
 - ・「今できることプロジェクト」のカットを 4 段 1/4 原稿内に組み込んでいただき、完全データで制作入稿していただきます。
 - ・制作は広告会社を通じてお願いします。別途制作デザイン費用がかかります。

②

③

「プロジェクトに関するお問い合わせ」今できることプロジェクト事務局 / 東北新報社営業課 tel 022-211-1318

私たちは東北の復興のために「今できることプロジェクト」に賛同しています。

③ディスプレイ広告(4段1/2モノクロ)

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ フリースペースとして 4 段 1/2 を自由体裁で制作していただきます。 ・ 制作は②同様に広告会社を通じて完全データで制作入稿をお願いします。別途制作デザイン費用がかかります。 ・ 掲載時は、弊社でカット(1 段 1/2)をドッキングして、5 段 1/2 相当スペースに掲載となります。 | <p>フリースペースサイズ</p> <p>タテ 110mm</p> <p>×</p> <p>ヨコ 90mm</p> | <p>フリースペースサイズ</p> <p>タテ 134mm</p> <p>×</p> <p>ヨコ 189mm</p> |
|--|---|--|

プロジェクト掲載紙面

- 2025年10月1日から(予定)
●朝刊カラー全15段、全7段、全5段 など

参加者募集紙面

[illegible]

※昨年度の紙面です。

紙面に
賛同企業名
掲出

レポート紙面

ホームページとSNS

今できることプロジェクト
オフィシャルホームページ



今できることプロジェクト Facebook

河北新報読者だけでなく
広く活動内容を発信



記事と連動しながら
賛同者と情報共有



ご賛同料金について お申し込み締切 2025年9月12日(金)

ご賛同料金について お申し込み締切 2025年9月12日(金)

基本プランA

- ① 各回特集紙面に企業名表記
- ② 毎月1回、朝刊カラー全5段で企業ロゴ掲載（2025年10月～2026年3月）
- ③ 被災地支援活動を取材（素材提供も可）し、朝刊記事体モノクロ3段1/2を1回掲載
※被災地支援活動以外の原稿を掲載希望の場合、朝刊カラー4段1/4相当またはモノクロ4段1/2を1回掲載
- ④ 特設webサイト内で企業ロゴ掲載およびリンク設置
- ⑤ 「次世代継承の現場に触れ、津波被災物に学ぶツアー」への参加権利（3名まで）
- ⑥ 「仙台市減災推進課×今できることプロジェクト 防災・減災ワークショップ」への参加権利（各回3名まで）
- ⑦ 「3.11メモリアルネットワーク×今できることプロジェクト 被災地視察ツアー」への参加権利（各回3名まで）

新聞広告追加プラン

オプションプランB (カラー全5段)

プランAの①～⑦に加え、

- ⑧朝刊カラー全5段(税別定価1,985,000円)の掲載(1回) 掲載期間／2025年9月～2026年3月

※ご希望の掲載日をお知らせください。(日幅をいただく場合がございます)

オプションプランC(カラー全15段)

プランAの①～⑦に加え、

- ⑧朝刊カラー全15段(税別定価4,250,000円)の掲載(1回) 掲載期間／2025年9月～2026年3月

※ご希望の掲載日をお知らせください。(日幅をいただく場合がございます)

東日本大震災発生時からの取り組みをまとめておきたい、新たなフェーズとしてどのような取り組みをしたら良いのか、企業研修として被災地へ訪問を考えたい、など東日本大震災支援
関連でのお困りごとなどございましたらご遠慮なく当プロジェクト事務局にお問い合わせください。